

第2回 グループ会議（治水・利水分野） 議事骨子

開催日時	平成18年12月26日（火）14:00～17:00
開催場所	ホテル新大阪 東口ステーションビル 403会議室
出席者	委員8人、河川管理者等7人

治水・利水分野の第2回グループ会議が開催され、熊野川流域の課題とその課題に対する意見について審議が行われた。検討会の議事骨子は以下のようである。

1. 今後の進め方について

- ・ 「（仮称）流域のまとめ」（以後「流域のまとめ」とする）の作成に向けて、次回検討会において構成内容や熊野川のあり方等についての審議を行う。
- ・ 「流域のまとめ」の作成にあたっては、庶務が懇談会の指導の下で作業にあたる。

2. 流域の課題に対する意見について

- ・ 各委員の発表内容（会議資料1参照）に加えて、以下の意見が述べられた。

< 治水分野 >

1. 目標流量

- ・ 極値解析によると1/100確率の流量規模は28,000 m³/sとなり現在とは大きく異なった結果となる。

2. 浸水被害の軽減

- ・ ハザードマップについては、目標流量ごとに時間的な経過を踏まえたアニメーションを作成し、住民に対して判りやすく啓発することが重要である。
- ・ 今後20年～30年の河川整備計画では、上流の発電ダムの治水面での協力を加味した計画づくりが現実的と考えられる。
- ・ 基本方針での目標流量と整備計画での目標流量は異なってもかまわないのではないか。
- ・ 堤防高さ管理、河床掘削などは、流域全体の視野で捉える必要がある。
- ・ 熊野川は上流に多くのダムが建設済みのため、流下能力改善策は堆積土砂の掘削だけではないか。

3. 河川整備の連携 上中下流

- ・ 濁水長期化の対策を立てていくためには上流から下流まで一連の解析を行う必要があるのではないか。
- ・ 熊野川流域での連携した土砂管理の体制づくり、あるべき姿の検討が必要である。
- ・ 熊野川では、熊野川圏域総合流域防災協議会（行政のみ）が昨年より開催され、流域での調整、連携が図られている。
- ・ 地域振興、歴史文化の面からも連携というキーワードが重要となる。

4. 土砂の管理

- ・ 河口砂州の大きさは、土砂の流出状況の指標となるため定点観測を行う必要がある。
- ・ 川の参詣道として、生態系や流砂環境面からの河川形状のあり方について考える必要がある。

5. 津波対策

- ・ 新宮市内においては避難場所が少ないので宿泊施設を活用した避難対策も考えられる。
- ・ 浜辺歩き、釣り客を対象とした津波避難対策が必要である。

< 利水分野 >

1. 瀬切れ対応（維持流量の確保）

- ・ 舟下り復活のため、瀬切れ部分等に対して、流路掘削を行っても良いのではないか。
- ・ 情報の一元化と情報公開を進めれば様々な可能性が広がる、河川カメラ（ダムカメラ）などを設置してはどうか。

2. 濁水長期化への対応

- ・ ダムの法面からの土砂流出に関しては、猿谷ダムの法面形状が約50年間変化が無いことから土砂流出の原因にはなっていない。

3. その他

< 今後の作業 >

- ・ 環境グループからの提案を受けて、1月17日に検討会が開催出来るよう調整を行う。
- ・ 課題に対する意見の中で不足する内容については、1月10日までに各担当委員が作成し庶務へ送付する。